鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
平成 29 年 12 月 1 日

衛霊公　第十五

【三三】子曰く、君子は小知せしむべからず、大受せしむべし。小人は大受せしむべからず、小知せしむべし。

孔子がいうには君子は大人物と捉えたほうが良い。君子に小さな仕事をさせてはいけない。**「大受」**大きな仕事をさせるべきであろう。何故なら、小さな仕事を大人物にさせても、その人物の力量は分からない。その人物が大きな人物である時には、大きな仕事をさせると、その力量が分かる。したがって大人物かなと思ったら、大きな仕事をさせるものだ。そうしなければ、その人物の本当のところがみえてこない。**「大受せしむべからず」**小さな人物だと思ったら、大きな仕事は任せてはいけない。小さな仕事をこつこつ任せるべきであろう。何故なら小さな人物に大きな仕事を任せると失敗する。失敗した時に取り返しのつかないことが起こる。小さい人物だと思ったら、本人の力量が発揮できるぐらいの仕事をさせると状況がわかるので、小さい人物には小さい仕事をさせるべきであるし、大きな人物には大きな仕事をさせるべきである。それが各々の活躍の場を与えることになると、普通は解釈をします。

これは人物の鑑定法です。新たな仕事をする場合に大言壮語をする人がいる。大きなことを言う人がいる。大きなことを言う人が本当に大きな仕事ができるかといえば、なかなかそうはいかない。ただ人間の鑑定をすることは難しいので、本人が言ったことを、そのまま「あぁそうですか」と言って受けるわけにはいかない。本人が大人物だと思っていても、周りがそうは言っていないことが多い。また本人が小さいと謙遜するけれど周りは大人物だと褒め称えることもある。

人間を評価する時に眸子をみる。瞳の中を見る。これは河井継之助からきていますが、眸子の人物鑑定方法です。視・観・察の観察方法です。ここでは大人物か小人物かという分けかたをした上で、人物を鑑定する方法を述べています。

【三四】子曰く、民の仁に於けるや、水火よりも甚だし。水火は吾　蹈みて死する者を見る。未だ仁を蹈みて死する者を見ざるなり。

孔子がいうには、国民が日常生活を送る上で、水は欠かすべからぬもの。火も欠かすべ

かざるもの。水や火はとても大事なのだけれども、水や火に依存しすぎて全てお任せにした結果、水に依存しすぎて溺れる場合もある。火に依存しすぎて火事に焼かれて死んでしまうことがある。

水や火はとても国民の生活にとって大事であるけれども、仁というものは、それよりもさらに大事である。水火は大事にしていても、水火で人は死ぬが、仁を守って死ぬという人を孔子は見たことがない。これはいったいどうしたことか。そんなに人間は目先のことばかりで暮らしているとはどうしたものなのかという解釈をします。

言いかたを変えますと、仁は相当に意識して大事にし大切にし研鑽を積んでいかないと、なかなか会得することができないものだと捉えればよいでしょう。

今の時代にあわせれば、安倍首相と小泉進次郎議員を比べてみれば良いと思います。安倍首相は自分のことを大人物となぞらえているようですし、自民党の一強ということで、大人物と本人が錯覚するような言動を周りの政治家たちはしているように見えます。また小泉進次郎さんは将来の大人物だと周りが持ち上げている部分があります。さてそうすると、本当に大きな仕事を成し遂げられるのは安倍さんなのか、小泉進次郎さんなのかと眺めてみる。やっている仕事、やらせている仕事をよく検証してみれば良いと思います。

小泉進次郎さんは農政改革ということを打ち出した。でもこれは尻切れトンボで終わっています。その先には進んでいない。安倍さんは愚直に憲法改正に突き進んでいます。この評価は、時代が後世にならないと定まらないと思います。憲法改正ができたか、できないかは今の時点では分かりません。憲法改正に突き進んでいることは間違いないけれど、もしも憲法改正を安倍さんが自分の手で成し得たのなら、後々の人は大人物だという言いかたになるでしょう。

岸伸介やアイゼンハワーは、日米新時代きたると宣言しました。それから 60 年後、現代では岸伸介やアイゼンハワーは大人物といわれているのかどうなのかをみれば分かると思います。

佐藤栄作さんはどうでしょう。御本人が引退する時、テレビや新聞は嫌いだから出て行けとやりました。ただ、国民に語りたいからカメラだけ残れと言いました。その一言で佐藤栄作の評価が歪んできたと思います。前にも申し上げましたが、あの人の執念も非核三原則を間違えて出しました。本来は非核二原則でしたが、中曽根康弘さんが「持ち込ませず」をいれた非核三原則のアドバイスをしたら、もう頭の中のイメージが変わっていったのでしょう。それは良いということで取り入れました。非核三原則を打ち出した結果、現代に繋がっていますけれど、政治家の中では非核三原則は、あれは違いますと。暗黙の了解で持ち込んでいる。そのことについてメディアは言わず語らず。知っていても言わない。暗黙の了解になっている。後世になればなるほどボロが出てきます。

一貫して自分の主張を通して、日本の国に良かれと思い行った総理大臣はいったい誰なのだろうかという視点で眺める時に安倍さんは、自分の父親・祖父の意思を忠実に守って憲法改正をしようとしています。これが時代の流れで、まかり通る可能性があります。憲法改正が通ったら、最初のうちの評価はまっぷたつに分かれるだろうと思います。北朝鮮や中国などの動きをみていると、大人物と評価される可能性が少し増えてきたなと思います。

小泉進次郎さんは、小さい仕事を与えられている間は、大人物か、小さな人物かはわかりませんので、大きい仕事を与えられて、こなせなかったら駄目でしたとなります。今のところは着眼点、話の仕方、人を惹きつけるところなどは将来を期待する人達が多くなっていますが、さてあと何期か経験して政権の中枢に入ったところで、少しみえてくると思います。今は政権の中枢には入っていません。片足つっこんだところです。まだまだ遠吠えのままなので、論語の人物鑑定方で、小人物か大人物かという見方で、この二人をみると良いと思います。

外国ではトランプさんが大人物かどうかは、今回の北朝鮮に対応する仕方で露呈するだろう感とじています。

ここの章句は面白いと思っています。

周りの人達でみていると、自分で何か新しい仕事をしよう、新しい組織を作ろうと思うと色々な人物がいますので、自分が判断してこの人は、とても大きい器だなと思ったら大きい仕事を任せれば良いし、この人は細々としたほうが向いているなと感じたら、細かいことに氣がつかなければならない仕事を任せれば良い。半年ぐらいやって貰った上で判断すればよかろうと思います。実際仕事をして貰わない限り分かりません。会社が中途採用者や学生を採用する場合にも当てはまると思うので、1 週間で人間を判断するのはとんでもないと思います。ハローワークを通じて、人を採用する時に、時の政府が半年間ぐらいは実際に仕事をして貰った上で判断するべきであるとやれば良いですが、今の政府が受け止めて進めるのは難しいでしょう。現政権に寄付をする金額があと一桁変わると、そういう方向に動くような氣がします。自民党に対しての寄付は、今のところたいしたことがない金額と政権側は思っているようですので、一桁変えるとガラッと変わる動きが出現するだろうと思います。色々なところでこの章句は使えます。

「民の仁に於けるや」は、人の生活に必要だけれど、ないと困るということを自分に置き換えてみれば良いでしょう。

例えば、奥さんがいる人で考えてみれば、奥さんがいれば必要なことをやってくれる場合が多い。ただ煩いことをいっぱい言う奥さんがいる。困ったものだと思っても、まあまあ仲良くやっていこうとお互いに知恵を出せばよい。それを失敗すると三行半を突きつけられて大変な目に遭うことがある。奥さんと付き合う時には、よほど氣をつけて地雷を踏

まないように付き合うべきでしょう。ただ、本来人間たるものは人間としての道を進めていかなければならないから、**「仁」**人の道を考えて奥さんと付き合う。自分の人格を向上させ、なおかつ人徳を向上させると、奥さんも感化して、自ずから反省をし、亭主は頑張っているから、私も亭主のために尽くさないといけないとなるが、奥さんが尊敬し敬い協力をすることが、今の時代はとっても少ないようにみえる。周りにみることがないのは、いったいどういうことなのかと置き換えて考える。

もう少し砕いて、奥さんとの付き合いかたで考えると、奥さんがうちの亭主はたいしたものだ、この人についていこうと考えているような夫婦関係であれば素晴らしいけれども、なかなかそのような夫婦関係は見たことがないです。だいたいの夫婦関係は損得づく欲得づく。亭主が先に死ぬと年金が少ししか入らないから、なるべく長生きして貰いたいものだとか。浮氣をしていることが分かったら、たくさん慰謝料をふんだくって別れて、その慰謝料で食っていく。でもそれが無理だと分かったら、浮氣をされても我慢しいしい、ちくりちくりと刺しながら生活をする。長い地獄になるから浮氣はしないほうがよいですし、本氣にならないほうがよいですよと。

人間としての本来の道は自分を向上させることなので、浮氣が本氣になったら大変だからと考えればよいでしょう。